

九州国立博物館における「本願寺展－親鸞と仏教伝来の道」 展覧会構成並びに出陳リスト

＜第1章 親鸞聖人の事蹟と信仰＞

親鸞は平安時代末期の承安三年(1173)、藤原氏の流れをくむ日野氏の子として京都に誕生しました。9歳で出家して後20年、比叡山で天台僧として修行しますが、旧来の仏教に限界を感じ、当時京都・吉水の地で専修念仏(せんじゅねんぶつ)(阿弥陀仏に帰依し、念仏を専らにする)を説く法然の門下となり、以後師の教えや浄土教の学究につとめました。

35歳の時、専修念仏に対する弾圧により、法然は土佐、親鸞は越後に流罪となります。建暦元年(1211)法然とともに罪を許されて程なく師が入寂、親鸞は東国に向かい、約20年にわたり布教を行います。この東国在住中に、主著である『教行信証(きょうぎょうしんしょう)』の執筆に着手し、浄土真宗の教義と思想を確固たるものとしていきました。

60歳を過ぎ、東国より京都に移住して後は、著述や注釈に力を注ぎ、和讃や文書によって、門弟や信者たちへの布教を精力的に行いました。弘長2年(1262)11月28日、京都三条富小路の堂坊にて、90歳の生涯を閉じました。

ここでは親鸞の肖像(御影(ごえい))、生涯を描いた絵伝、浄土教学への深い学究や、浄土真宗の教えが著された聖教類をご紹介します。

N o	出陳品名称		所 蔵 者
1	親鸞聖人影像(熊皮御影)	重要文化財	奈良国立博物館
2	親鸞聖人影像(等身御影)		本願寺
3	善信聖人絵(琳阿本)	重要文化財	本願寺
4	本願寺聖人親鸞伝絵	重要文化財	大阪・定専坊
5	親鸞聖人絵伝(万福寺所伝)		本願寺
6	親鸞聖人絵伝		本願寺
7	親鸞聖人絵伝		本願寺赤野井別院
8	親鸞聖人絵伝		本願寺
9	観無量寿経註 ----- 阿弥陀経註	国宝	本願寺
10	唯信抄	重要文化財	本願寺
11	浄土三経往生文類(略本)	重要文化財	本願寺
12	皇太子聖徳奉讃断簡		龍谷大学
13	親鸞聖人書状類	重要文化財	本願寺
14	教行信証	重要文化財	本願寺

<第2章 本願寺歴代の肖像と聖教>

親鸞の遺骨が京都・東山の太谷に葬られて10年後、帥の遺徳をしたう門弟たちによって墓所が整備され、文永9年(1272)、廟堂（太谷廟堂(おおたにびょうどう)）が営まれました。

N o	出陳品名称		所 蔵 者
15	光明本尊		龍谷大学
16	恵信尼影像		龍谷大学
17	恵信尼書状類	重要文化財	本願寺
18	親鸞・如信・覚如連座影像	重要文化財	本願寺
19	十字名号		本願寺
20	慕帰絵	重要文化財	本願寺
21	存覚影像		京都・常楽寺
22	山科御影（如心）		本願寺
	山科御影（覚如）		
	山科御影（従覚）		
	山科御影（善如）		
	山科御影（綽如）		
	山科御影（巧如）		
	山科御影（存如）		
	山科御影（蓮如）		
23	正信偈		本願寺
24	歎異抄	重要文化財	本願寺
25	三帖和讃（浄土和讃）		本願寺
	三帖和讃（高僧和讃）		
	三帖和讃（正像末和讃）		
26	親鸞・蓮如連座影像		本願寺
27	六字名号（光名号）		本願寺
28	六字名号		本願寺
29	御文章		本願寺
30	御文章草稿		本願寺
31	順如影像		本願寺
32	実如影像		大阪・定専坊
33	慶寿院影像		本願寺
34	証如影像		本願寺
35	顕如・如春尼連座影像		本願寺

<第3章 ゆかりの至宝—名筆・茶の湯・障壁画>

本願寺にはその時どきに、豊かな芸術文化がはぐくまれ、珠玉の美術工芸がもたらされてきました。本章では、こうした本願寺ゆかりの至宝をご紹介します。

本願寺は室町時代中期、第7代実如(じつにょ)の時に天皇家の勅願寺(ちよくがんじ)となり、第10代証如(しょうにょ)の時代には宮廷や公家・武家との関わりをいっそう深めました。この時期に、国宝「本願寺本三十六人家集」や国宝「熊野懷紙」など、宮廷文化の粋をきわめた名筆の数々が伝えられています。

茶の湯もまた、本願寺の芸能史上重要な位置を占めます。

「慕帰絵」に描かれるように、早く第3代覚如の時代から、茶の文化がはぐくまれてきました。室町時代後期、大坂・石山の地にあった本願寺(石山(いしやま)本願寺(ほんがなんじ))に伝来したとの伝承をもつ茶器類は「本願寺名物」と呼ばれ、現在でも珍重されています。江戸時代初期には、藪内(やぶのうち)流の2代月心軒真翁(げっしんけんしんおう)が本願寺13代良如(りょうにょ)に茶を献じ、以来藪内家は同寺の茶家となって今に至っています。

天正7年(1591)現在の地に移転した本願寺では、伽藍の整備が進められ、堂宇(どうう)や書院など壮麗な建築物が次々と建立されました。その室内を荘厳する障壁画類もまた圧倒的な質・量を誇り、内容も豪華絢爛な桃山時代狩野派の余韻を伝える江戸初期のものから、瀟洒(しょうしゃ)な京都画壇のおもむきを示す江戸後期のものまでと多彩です。

N o	出陳品名称		所 蔵 者
36	本願寺本三十六人家集 (貫之集上・斎宮女御集・重之集・元輔集・能宣集下・小町集)	国宝	本願寺
37	本願寺本三十六人家集(模写本) (貫之集上・貫之集下・伊勢集・家持集・赤人集・猿丸集・ 兼輔集・敦忠集・是輔集・元真集・能宣集上)		東京国立博物館
38	後奈良天皇宸翰女房奉書	国宝	本願寺
39	天文日記(天文18年1月20日条)	重要文化財	本願寺
40	熊野懷紙	国宝	本願寺
41	鷹手本	重要文化財	本願寺
42	広沢切	重要文化財	本願寺
43	栄花物語	重要文化財	本願寺
44	阿弥陀経		本願寺
45	雪中柳鷺図	重要文化財	本願寺
46	平沙落雁図		本願寺
47	墨竹図		本願寺
48	織田信長黒印状		本願寺
49	豊臣秀吉朱印状		本願寺
50	千利休書状「山鳥の文」		耕三寺博物館
51	豊臣秀吉書状「天目の文」		耕三寺博物館
52	六祖截竹図	重要文化財	東京国立博物館
53	六祖破経図		三井記念美術館
54	盆石 銘末の松山		本願寺
55	盆石 銘残雪		本願寺
56	古天命鍋釜		香雪美術館
57	桜皮付丸太蒔絵炉縁		北村美術館

58	南蛮毛織抱桶水指		野村美術館
59	祥瑞蜜柑水指		出光美術館
60	珠光青磁茶碗		出光美術館
61	井戸茶碗銘藤沼追銘滴翠		耕三寺博物館
62	肩衝茶入銘村上肩衝		耕三寺博物館
63	丸壺茶入銘御堂坊		耕三寺博物館
64	豊臣秀吉共筒茶杓		野村美術館
65	藪内劍仲共筒茶杓		香雪美術館
66	天文日記（天文22年2月14日条）	重要文化財	本願寺
67	天文日記（天文17年正月4日条）	重要文化財	本願寺
68	銅鐘	重要文化財	本願寺
69	雪松図		本願寺
70	雪梅竹図		本願寺
71	松桜孔雀図		本願寺
	解網施仁図		本願寺
72	波濤図		本願寺
73	雪柳図		本願寺
	瀟湘八景図		本願寺
74	歌仙図（猿丸太夫）		本願寺
	歌仙図（凡河内躬恒）		本願寺
	歌仙図（中務）		本願寺
	歌仙図（藤原興風）		本願寺
75	四季耕作図		本願寺
76	帰去来図		本願寺
77	桜牡丹図	重要文化財	本願寺西山別院
78	松藤図	重要文化財	本願寺西山別院

＜第4章 大谷探検隊と仏教伝来の道＞

開国以来、急速な近代化の波が押し寄せていたころ、明治4年(1871)岩倉具視の欧州使節団に同行者を派遣するなど、本願寺(西本願寺)は西欧の宗教政策、教育制度に学び、教団の制度と教育の近代化を図ろうとしていました。こうした機運の中、大谷光瑞(おおたにこうずい)師は明治9年(1876)、第21代明如の長子として誕生します。

19世紀末～20世紀初頭、欧州諸国やロシアは、東トルキスタン(西域、主として新疆ウイグル自治区南半を占めるタクラマカン沙漠一帯)における地理学的調査のため、探検隊を送りこんでいました。

開国進取の精神で、インド仏教遺跡巡礼や欧州留学を果たした光瑞師も、探検隊の組織を計画し、1902～1914年の間、3回にわたり、仏教東漸(インドから中国、さらには日本にいたる仏教伝来の道)途上に点在する仏教遺跡調査のため、新疆省をはじめとする広範な地域に、現地調査や資料収集を重ねた調査隊を派遣しました。すなわち「大谷探検隊」です。

しかし西欧の探検隊が、国家事業として運営され、内容も地理学的調査を主としたのに対し、大谷探検隊は、本願寺第22代であった光瑞師が、仏教指導者として、仏教伝来のありさまを跡づけることを目的として組織した点に、最大の特徴があります。

大谷探検隊が果たした西域仏教遺跡調査の成果は、国内では龍谷大学をはじめ、国公立の美術博物館・大学に分蔵され、現在もたゆまぬ研究が続けられています。

N o	出陳品名称		所 蔵 者
79	李柏尺牘稿	重要文化財	龍谷大学
81	仏頭部		東京国立博物館
81	仏說法図		東京国立博物館
82	菩薩頭部		東京国立博物館
83	菩薩頭部		龍谷大学
84	飛天像		東京国立博物館
85	蓮華中仏坐像		龍谷大学
86	奉献塔		東京国立博物館
87	人物動物小像		東京国立博物館
88	長方蓮華文塼		東京国立博物館
89	伏羲女媧図		龍谷大学
90	伏羲女媧図		龍谷大学
91	戸籍文書	重要文化財	東京国立博物館
92	アイマスク		東京国立博物館
93	紺地文字・三日月文経錦断片		龍谷大学
94	朱晒地連璧鳥形文緯錦断片・白地連璧鬬羊文錦断片		龍谷大学
95	朱地連璧天馬文緯錦断片		龍谷大学
96	蘇芳地魚子纈纈断片と刺繍断片		龍谷大学
97	天山採集植物標本		龍谷大学
98	古銭		龍谷大学
99	印沙仏		龍谷大学
100	妙法蓮華経如来神力本		龍谷大学
101	無量寿経 卷上		龍谷大学
102	金光明最勝王経 卷第5		龍谷大学

103	サンスクリット白傘蓋陀羅尼經		龍谷大学
104	チベット字サンスクリット法身偈		龍谷大学
105	西夏文六祖壇經		龍谷大学
106	ウイグル文天地八陽神呪經		龍谷大学
107	絵入ウイグル文スダーナ本生話		龍谷大学
108	ウイグル文大乘無量寿經		龍谷大学
109	ソグド文法王經		龍谷大学
110	ホータン文ザンバスタの書		龍谷大学
111	古トルコ語マニ教文書		龍谷大学
112	ネパール梵本無量寿經		龍谷大学
113	奉獻小塔		龍谷大学
114	仏坐像		龍谷大学
115	ラマ教仏像		龍谷大学
116	組立暗箱式カメラ		吉川家(寄託)
117	写真乾板		龍谷大学
118	写真焼付		龍谷大学
119	トランシット・高度計・懷中時計		龍谷大学
120	旅行教範		龍谷大学
121	旅行鞆		龍谷大学
122	木箱		
123	馬票		龍谷大学
124	馬蹄銀		龍谷大学
125	探検指図書		龍谷大学
126	中亜旅行記		
127	渡辺哲信日記		龍谷大学
128	掘賢雄日記		龍谷大学
129	二樂叢書		龍谷大学
130	新西域記		龍谷大学
131	西域考古図譜		龍谷大学
132	大谷探検隊将来西域出土美術資料模本		龍谷大学

(注)各章にあります解説文は、西日本新聞社が作成し、「本願寺展」開催期間中、会場で展示されていたものを転載いたしておりますこと、ご留意ください。